

宮中取水ダム試験放流に伴う検証の内容 平成26年度(5年目)調査等計画

※現地調査は東日本旅客鉄道(株)、解析・評価は北陸地方整備局信濃川河川事務所を基本

項目	調査内容	調査の目的等	平成22年度 (1年目)	平成23年度 (2年目)	平成24年度 (3年目)	平成25年度 (4年目)	平成26年度(5年目)	
								備考
河川形態	航空写真判読	各流量の瀬、淵等河川形態の状況を確認する。	○	○*	○**	○****	—	
河川水温	水温実測	夏季の流量における水温を確認する。	○	○	○	○	○	別紙追加調査含む
付着藻類	現地調査	夏季の流量における付着藻類の異常繁茂の状況を把握する。	○	○	○	○	○	
底生動物	現地調査	底生動物の生息状況を把握する。	○	○	○***	○***	○***	
魚類の生息 及び遡上・ 降下	生息・生育状況調査	魚類の生息・生育状況を把握する。	○	○	○	○	○	
	生息場の状況調査 (滞筋)	魚類の移動のために必要な水理条件(水深)が確保されているかどうかを確認する。	○	○*	○**	○****	—	
	アユ生息・生育状況調査	アユの生息・生育状況を把握する。	○	○	○	○	○	
	サケ遡上調査	サケの遡上数を把握する。	○	○	○	○	○	サケ漁場調査含む
	サケテレメトリー調査	流量変動時のサケの遡上速度・経路等を把握する。	—	—	—	○	○	
河川景観	写真撮影	各流量の河川景観を把握する。	○	○*	○**	○****	—	
河川水質	水質調査	各流量の河川水質を把握する。	○	○	○	○	○	
河川利用	河川利用状況	釣りやその他の河川の利用実態を把握する。	○	○	○	○	—	
	釣場適性把握	釣場として利用可能な範囲を把握する。	○	○	○	—	—	
	舟下り適性把握	河川利用の一形態として舟下り(ラフティング等)の適性を把握する。	○	○	○	○	—	
水際環境	水際環境調査	水位変動時の、水域と陸域の移行帯の状況を把握する。	—	—	—	○	○	

○：実施 —：実施しない

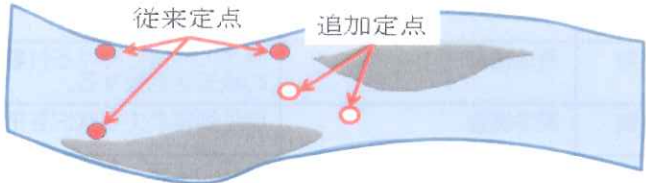
* ：平成23年度に宮中取水ダム流入量が約3,000m³/sを超えたため実施した。

** ：平成24年度は宮中取水ダム流入量が約3,000m³/sを超えなかったが、補足調査として実施した。

*** ：平成23年度の調査結果により、平成24年度以降の初春季調査は実施しない。

**** ：平成25年度に宮中取水ダム流入量が約3,000m³/sを超えたため実施した。

追加調査計画概要

<p>定点追加調査</p>	<p>十日町橋、妻有大橋、栄橋、川井大橋の調査地点について流心部などに定点を追加する。</p>	
<p>高密度な面的調査</p>	<p>これまで実施してきた面的な水温分布の確認を高密度に実施し、河道内地形等の情報を元に連続観測を実施することで、水温の分布状況を把握する。</p>	